

## 「スタートアップで働く」

著者：志水 雄一郎

出版：株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン

発行：2023年8月25日



「スタートアップ」という言葉がよく聞かれるようになって久しい。

スタートアップに明確な定義はないが、革新的な技術やビジネスモデルの事業を営み、社会に新しい価値をもたらしながら、短期間で急成長を遂げる意欲を持つ企業を指す。ひと昔前の「ベンチャー企業」はIT関連分野が中心だったが、スタートアップは分野を問わない代わりに社会課題解決の要素が加わったイメージだろうか。

政府は2022年を「スタートアップ創出元年」と位置づけ、今後5年間でスタートアップへの投資額を現在の10倍となる10兆円規模まで拡大することを視野に「スタートアップ育成5か年計画」を策定した。しかし、スタートアップに対する日本社会のイメージは様々である。「素晴らしいとは思いますが10年後も存続しているのか疑問」「自分が就職するとしたら不安」という声がよく聞かれる。

高等学校の商業科目「ビジネス基礎」の教科書でも、スタートアップは取り上げられている。しかし、私は商業科教員として授業中にスタートアップのことを正しく伝えられているだろうか。また、就職指導を含むキャリア教育の様々な場面で、いま社会で起こっている変化を適切に紹介できているだろうか。自分自身の知識と価値観をアップデートするために、この本を手にとった。

著者の清水雄一郎氏は転職サイト「DODA」の立ち上げなどを経て、現在はスタートアップ支援を行う「フォースタートアップス株式会社」の代表取締役社長を務めている。若手の多いこの業界にあって、1972年生まれ（現在51歳）ということで、私にとっては安心感（親近感?）を持って読み進めることができた。

全体は4つの章に分かれている。

第1章：なぜ、今、スタートアップなのか

第2章：スタートアップへ転職する「前」に知っておくべきこと

第3章：どのスタートアップに転職すべきか

第4章：スタートアップ転職の成功事例

この章立てを見ると完全に「スタートアップへの転職を勧める本」「転職希望者が読む本」である。しかしスタートアップや転職について、そのデメリットも具体的に示しながら読者に判断を委ねている部分もあり、スタートアップの現状やそこで働く人々の本音が記された本としても読み応えがある。

私が最も共感したのは、学校における起業教育の重要性（と、それが不足している現状）について書かれた部分である。

「日本ではキャリアを主体的に選択するという教育が不十分であることに加えて、仕事に対する思想や思考に関する学びを得る機会がまだまだ少ない。『働いて生きる』というテーマに対して、『あなたにはどんなチャンスと可能性があり、何を成し得て死んでいくのか』という人生の大きな主題の一つともいえることへの眼差しが養われないまま社会に出るケースがほとんどだろう。」（第1章）

「日本の多くの人の安定志向の根幹は、案外にシンプルで、僕は『学校や親が教えたから』という点にあると思う。『就職するなら大手企業に進みなさい。ブランド力もあり、社会的信用もあり、安定した生活ができる』という考え方が、意識的にしろ、無意識的にしろ、親や学校によって脈々と受け継がれてきてしまっている。高度経済成長期であれば正しいアドバイスだといえる。しかし今は『失われた30年』で国力が衰えた後である。日本の『安定』は世界での『負け』なのだ。」（第2章）

この安定志向はまさに、私自身が学生時代から植え付けられてきた価値観である。「時代は変わった」と認識しつつも、日々の教育活動でつい生徒に同じような言葉かけをしていたのではないかと、はっとした。スタートアップ転職希望者向けの本ではあるが、学校関係者や親世代にとっても示唆に富んだ一冊であると感じる。

とはいえ、「家族の説得方法」や「住宅ローンをどうするか」など、転職に関する具体的記述が多いのは事実である（個人的にはそれも含めて楽しく読めたが）。また、「スタートアップあるある」なのか、文中にカタカナ語が頻発するため、それは日本語でも言えるのでは…と思いつつ読み進める部分もあった。（例：「大企業子会社が立ち上げに成功した後にカーブアウトして、

ベンチャーキャピタルやファンドなど外部のリスクマネーを入れると、株式上場やバイアウトという形でイグジットを目指すことになる」）最新のビジネス用語を知る機会と捉えるとよいのかもしれない。

この本の帯には「社会と自分を変える機会を求めるすべての人に」とある。この本を手にとったことで、私自身も「まだまだ変わらなければ」と感じることができた。起業教育に関心を持つ方々にとっても、ヒントの多い一冊になるのではないかな。

起業教育研究会 企画委員  
京都府立京都すばる高等学校  
企画科 小川 建治